

第 60 号

昭和54年 5月 7日

内 容

第39回理事会…………… 1
 第1回常務理事会…………… 2
 理事長就任にあたって…… 2
 ご挨拶…………… 3
 第39回理事会における
 役員人事決定に至る経過…… 4



発 行

財団 大学セミナー・ハウス
法人

(所在地)

東京都八王子市下柚木1987-1
(〒192-03)

電話 0426-76-8511
振替口座 東京 74590番

第39回理事会開催

大学セミナー・ハウス

新執行体制決定

開催日 昭和54年4月6日

場 所 丸の内銀行クラブ

● 理事長に茅誠司氏

● 常務理事五名を選任

● 専務理事は欠員

(出席者)

理事 川喜田愛郎、茅誠司、中村

哲、村井資長、戸田修三、沼

田稲次郎、小谷正雄、麻生平

八郎、坂本是忠、加藤一郎、

ヨゼフ・ピタウ(代理)、飯

田宗一郎(以上12名)

委任状出席者 上代タノ、向坊

隆、相馬勝夫、天城勲、石川

忠雄、蓼沼謙一、齋藤進六、

尾形典男、中島文雄、小山五

郎、永井道雄、齋藤鎮男、稲

山嘉寛(以上13名)

監事 福与正治

顧問 石館守三、加藤六美、山内

恭彦(以上3名)

議案 役員人事に関する件

議案審議に先立ち、昭和53年

12月18日に開催された第38回理

事会において、役員人事を検討

することを目的として設置され

た臨時小委員会(委員・茅誠司、

中村哲、村井資長、沼田稲次郎、

永井道雄の五氏)の座長茅氏よ

り三回にわたり開催した小委員

会の検討内容について詳細に説

明が行われた。

理事会決議

役員人事、法人運営につき熱心な審議の後、左記のとおり決議された。

(1) 理事長に茅誠司氏を選任。

(2) 常務理事に川喜田愛郎、中

村哲、村井資長、沼田稲次郎、

永井道雄の五氏を選任。

(3) 常務理事会は、理事長と常

務理事五名、計六名をもって

構成する。

(4) 専務理事飯田宗一郎氏の職

を解き、専務理事は当分の間

欠員とする。

(5) 館長に飯田宗一郎氏を再任。

◆新理事長茅誠司氏と当セミナー

・ハウスとの関係

昭和34年11月～36年11月

セミナー・ハウス設立準備委員

昭和36年11月～37年3月

財団法人大学セミナー・ハウス

設立発起人

昭和37年4月～41年10月

同理事

昭和39年10月～45年3月

同初代館長

昭和41年10月14日～現在

同終身理事・終身評議員

昭和54年4月6日

同理事長

第1回常務理事会開催

― 日常業務運営について ―

幹部会に権限を委譲

開催日 昭和54年4月10日

場所 東京都立大学総長室

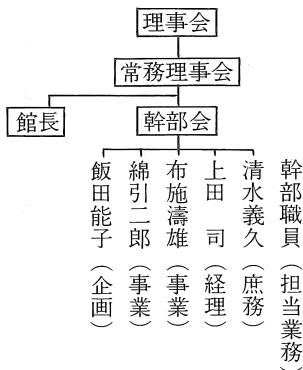
〔出席者〕

茅理専長、川喜田、中村、沼田、村井の四常務理事。(永井常務理事欠席)

議事に先立ち当日出席の四名の幹部職員(庶務・清水、経理・上田、事業・布施、企画・飯田能子)に対し詳細具体的な説明聴取。

常務理事会決議

(1) 日常の業務運営については五名の幹部職員をもって構成



する幹部会に権限を与える。必要事項については事前又は事後に常務理事会の承認を得る。幹部会は合議制により実施する。

(2) 第2回常務理事会を次のとおり開催する。

日時 昭和54年5月7日

場所 大学セミナー・ハウス

理事長就任にあたり

茅 誠 司

(1) 就任に至った事情

私は大学セミナー・ハウス創設当時六年間初代の館長をつとめた

したが、この度理事長に選任されました。80才の老令をかえりみず、何故あえて理事長をお引き受けい

たしましたか、その間の事情をのべたいと思います。

創立以来大学セミナー・ハウスは、高い理念と構想のもとに、社会的公共性のある事業として飯田宗一郎氏を中軸に今日まで発展を上げてまいりました。その間事業の規模も逐次増大し、個人企業的なものから共同組織体としての運営形態を必要とするまでに発展してまいりました。しかしその運営の実際において、飯田宗一郎氏の個人的運営の面が強く、この数年間は、その傾向がますます強くなり、諸種の問題を醸成するようになりました。昨年第37回理事会において川喜田理事長より任期満了による退任の申出があり、後任理事長をなるべく早く選任願いたいとの提案がなされました。しかしながら当時あまりにも問題が多いため、後任を引受ける方がなく、やむなく臨時に小委員会を設け、私が座長となり、役員候補者の選考を含め大学セミナー・ハウスの現状における問題点の所在と、運営方針の再検討改善をはかるため三回にわたり慎重に審議した結果、ようやく今回の第39回理事会に報告した結論となりました。私が創

立以来大学セミナー・ハウスに關与してきたこと、その間先にのべました諸種の問題を逐次改めることに関し、充分な措置をとりえなかつたということも考え、老年を省みず理事長の職を引き受けることとした次第です。

(2) 今後の法人運営の方針

このような現状認識のもとに、法人の理念を基盤として、経営を確立するために、従来の個人的な経営を組織的運営に改めるため、理事会は館長の専務理事兼任をとりやめ、飯田宗一郎氏には館長の職務だけに専念してもらうことにしました。又新常務理事会を設置し、専務理事は当分の間欠員とし、日常の業務運営を五人の幹部で構成する幹部会に委任しました。勿論適任者を得れば可及的速やかに専務理事をおくべきですが、それまでは理事会、常務理事会、幹部会による運営組織の形で業務の充実を図って行きたいと思えます。

(3) 関係者の方々へお願い

今までは、その事業については、世間一般の評判もよかつたし、高く評価されてきました。今後はこの新体制のもと、更に事業を発展させるため、この大学セミナー・

ハウスが個人のものではなく、公益事業として運営されるものであり、法人関係者全員が協力一致してこの大学セミナー・ハウスの運営に取り組みたいと思います。職員皆さんは自分たちが働いているセミナー・ハウスだという意識を強くもち、単に上からのおしつけではなく自分の考えや意見を積極的に組織を通じて反映させ、真に



ご挨拶

前理事長

川喜田 愛郎

働きたいのある職場を作っていた
だきたいと思えます。

最後にこれまで当法人発展のためにご支援ご協力を賜った関係者各位に今後とも新執行体制が目ざしております発展と正常化促進の努力に対して、これまで以上のご支援、ご協力の程お願い申し上げます。

から願ってやまない次第です。

さきごろわたくしは偶然、一九六三年六月箱根湯本で行われた当セミナー・ハウス（当時八王子に建設工事中）主催の大学教育協議会に某大学を代表して出席されたある方の長文の手記をご好意によって入手し、「建設後の大学セミナー・ハウスの活動の基本方針」をめぐって二日にわたって行われた熱心な討議の模様を読んでふかい感銘を覚えました。「初心忘るべからず」という言い古された言葉が新鮮な迫力で甦ったことでした。それに参加された方々のかなりの数が今ではこの丘から距離をとってしまわれたかみえるのが残念ですが、その自由で「大学的な、あくまで謙抑な、雰囲気こそわれわれが鋭意回復しなければならぬもの」と痛感したのでした。

それが今では絶えたとか絶えようとしているなどという軽卒な判断をわたくしは下すつもりは夢さらないのですが、卒直に言って、これが開かれた「大学」として自分たちのものである——もとより先輩たちのご労苦をよく憶え感謝した上で——というあの箱根の会合の記事にもうかがわれる創立の精

◇前理事長川喜田愛郎先生を送る
川喜田愛郎先生は昭和52年6月9日理事長ご就任以来一年有半にわたり終始法人の改善にとりくまれ、公私ご多忙の中にありながら理事長として大学セミナー・ハウスの為に尽力されました。職員一同感謝の気持ちでいっぱいであり、また今期常務理事として法人運営にたずさわっていただくことになりましたことは、法人関係者全員の大きな喜びであります。

神が何ほどか薄れたのではあるまいか、という危惧は抑えがたいのです。それでは「指導者」とか「独裁」とかいふ妖怪めいた言葉が学問と教育を語り合うこのテリトリーの中でなぜ跳梁に任せられているのでしょうか。法人の管理運営というようなむしろ二義的問題もさることながら、学問の「精神」に触れた若々しい議論の声がこの丘にもっと高く上がってほしいとわたくしは切望しています。大多数の職員諸君もそうしたはたらきがいのある職場を求めておられることをわたくしはこの耳できいているのです。

正田理事長ご急逝のあとを承けて、その任期の残りの期間というお約束で法人理事長にはからずも就任してからかれこれ二年に近い日が流れました。任期は昨年六月に切れていたのですが、以来難航を続けていた後任理事長に、理事会全員の懇望に応じて創立以来の功労者茅誠司先生のご出馬を得たことを皆様とともに深く喜びたいと思えます。

はつきり言って公益法人としての当セミナー・ハウスの管理運営

にはこれまで大きな歪みがあったように思います。微力にしてそれを何ほど有効に直すことのできなかったことを愧じます。幸いに公正で温情にとんだ新理事長の下に新たに編成された執行部によって、やがてその軌道の修正が一步步ずつ実現されるだろうと期待されるのは理事長退任に当つてのひそかな慰めです。ここにあらためて不肖在任中の諸般の不行届きを深くお詫びすると同時に、大学セミナー・ハウスの健全な発展を心

理事長退任のご挨拶としては脱線にわたることをいささか弁えながら、古稀に手のとどいたわたくしが、年がいもなくあえてこうした青くさい蕪辞をつらねる微意をお汲みいただけたらまことに大きな幸いです。

(一九七九・五・五)

第39回理事会における

役員人事決定に至る経過

(1) 第37回理事会

- ▽開催日 昭和53年6月9日
- ▽場所 日本工業クラブ
- ▽出席者 十名
- ▽委任状出席者 十名
- ▽監事出席者 一名
- ▽議案 理事長の選任について

川喜田理事長の任期終了に伴い後任理事長の選任について協議したが、当日までに決定をみるに至らなかった。

(2) 終身理事・顧問合同会議

- ▽開催日 昭和53年9月11日
- 飯田館長の提案による私的な諮問機関「館長が意見をきく懇談会」を二回開催し適当な

理事長候補者を推せんし、理事に報告して理事会にかかる手順であつたがその内諾を得るに至らなかった。

(3) 第38回理事会

- ▽開催日 昭和53年12月18日
- ▽場所 銀行クラブ
- ▽出席者 十名
- ▽委任状出席者 十四名
- ▽監事出席者 一名
- ▽議案 役員改選について

理事会の中に臨時に小委員会を設け、当面の課題である役員候補者の選考を含めて、セミナー・ハウスの現況における問題点の所在と運営方針の再検討をはかる。

(4) 第1回臨時小委員会

- ▽開催日 昭和54年1月31日
- ▽場所 日本工業クラブ
- ▽出席者 七名(委員全員と理事長、飯田館長)

(5) 第2回臨時小委員会

- ▽開催日 昭和54年2月5日
- ▽場所 日本工業クラブ
- ▽出席者 五名(委員全員)

(6) 第3回臨時小委員会

- ▽開催日 昭和54年3月20日
- ▽場所 銀行クラブ
- ▽出席者 五名(委員全員)

(7) 第39回理事会

- ▽開催日 昭和54年4月6日
- ▽場所 銀行クラブ
- ▽出席者 十二名
- ▽委任状出席者 十三名
- ▽監事出席者 一名
- ▽顧問出席者 三名

川喜田愛郎前理事長

日本学士院賞受賞

前理事長川喜田愛郎氏はこのほどその著書「近代医学の史的基盤」によって昭和54年度日本学士院賞受賞が決定になりました。(受賞式は六月中旬の予定)

<予 告>

第1回 大学院共同セミナー

(2回連続セミナー)

主題 諸学の系譜と真理愛—方法論の再検討—

期日 第1回 昭和54年6月23日～25日
第2回 昭和54年11月30日～12月2日

全体指導……………東京大学名誉教授 前田 護郎
ゲスト講演

方法論をめぐる…上智大学理事長 柳瀬 睦男

講演・演習指導

〈人文〉神学と経験……………立教大学教授 塚田 理

〈社会〉社会科学の対象と方法

……………明治大学教授 田村 光三

大塚史学との出会い

……………中央大学教授 山下 幸夫

〈自然〉物理学とは何か(1)—アインシュタイン100年—

……………上智大学教授 鈴木 皇

運営委員……………聖心女子大学教授 岡 宏子

申込締切 昭和54年6月12日(火)